

## フィールドインターンシップ型授業報告

### 1. 授業科目「社会科教育内容学Ⅲ」

(1) 担当者：外池 智（教科教育学講座）

#### (2) 授業の概要

筆者が担当する秋田大学教育文化学部の学校教育課程教科指導法科目「社会科教育内容学」では、「フィールドワーク型授業構成演習（通称「ミニ巡検」と呼んでいる）」として、社会科教育における「臨場的授業<sup>1)</sup>」の構築を目指して、実際のフィールドワーク実施を取り入れた単元構成や授業構成に取り組んでいる。本稿では、社会科教員養成に関わる授業の試みとして、この授業の概要と今年度の実践事例を報告したい。

#### ①「フィールドワーク型授業構成演習（ミニ巡検）」の授業プロセス

筆者が本学に着任した2002（平成14）年度より、本実践は実施している。本実践の授業プロセスは、以下の通りである。

- (1) 「ミニ巡検」オリエンテーション（対象地設定の視点とモデル「ミニ巡検」の事前学習）
- (2) モデル「ミニ巡検」（「ミニ歴史探検—なんと私たちの学校の近くに、実はあんなものやこんなものが！！、私たちの身近な史跡を訪ねて—」の実施）
- (3) 学生による対象地の選定とプランニング
- (4) 事前学習（対象の教材研究と授業の位置付けの吟味）
- (5) 「ミニ巡検」の実施
- (6) 事後学習（VTRによる「ミニ巡検」の振り返りと授業構成の吟味）
- (7) 報告書の作成
- (8) 報告書の編纂

まず対象地は秋田市内とし、想定された学校において1、2時間の時間枠で実施できる場所を設定する。その際、「ミニ巡検」の類型として、1. テーマがあるミニ巡検（授業者側に見てほしい対象、観点が焦点化されている場合。例えば、秋田の衣食住など）、2. 場の特性を活かしたミニ巡検（例えば、秋田市寺内、八橋地区など）、3. 系統枠（地理、歴史、公民）の視点によるミニ巡検の3つを示し、対象地選定の参考を示す。次に、モデル「ミニ巡検」として、秋田市立寺内小学校の6年生の歴史の授業を想定し、「古里かるた わたしたちの八橋・寺内<sup>2)</sup>」を活用した「ミニ歴史探検—なんと私たちの学校の近くに、実はあんなものやこんなものが！！、私たちの身近な史跡を訪ねて—」を実施する。そして、これらを踏まえて、学生自身が年間計画や単元、授業におけるフィールドワークの位置付けを設定し、プランニング—事前学習—「ミニ巡検」の実施—事後学習—報告書作成—報告書の編纂<sup>3)</sup>による総括のサイクルで、各自のフィールドワーク、そしてそれを中心とした授業構成をトータルにコーディネートする。すなわち、授業デザインそのものをプロジェクトワークとして実施するのである。

#### ②これまで実施した「フィールドワーク型授業構成演習（ミニ巡検）」の概要

さて、これまでに実施した「ミニ巡検」は次頁の表1の通りで、筆者によるモデル「ミニ巡検」を除き全部で42件である。学年別、分野別の内訳は、2002（平成14）年から2006（平成18）年の5年間を累計し、小学校では全部で21件、その内訳は3年生が4件、4年生が3件、5年生が10件、6年生が4件、中学校では全部で20件で、その内訳は地理的分野が8件、歴史的分野が6件、公民的分野が6件、高校は1件のみで日本史である。

表1 2002年度から2006年度までの「ミニ巡検」のテーマと対象地

| 実施年度                                   | テーマ  | 対象地  | 対象学年   | 関連単元と本時の位置づけ  |
|--|--|--|--|---|
| 2002年度                                 | 私たちが使っている電気はどこからきているのだろうか  | 秋田火力発電所  | 小学3年   | 「飲料水、電気、ガス、廃棄物処理のしくみ」の学習の中で   |
|  | 南秋田運転所を見学しよう<br>～毎日たくさんの人を鉄道を移用する、安全に快適な移動ができるためにどのような作業が行われているのだろうか？～<br>～鉄道ってどんな仕組みになっているのだろうか？～   | 南秋田運転所   | 中学2年   | 地理的分野：「地域の規模に応じた調査」の学習の中で   |
|  | 千秋公園を探索してみよう<br>～久保田城はどうなつくりになっていたのだろうか？～<br>地名巡検<br>～私たちに慣れ親しんでいる身近に存在する「地名」がどのようにして付けられたものなのかを、実際に巡検することで知ろう～  | 千秋公園：大手門跡→黒門跡→一の丸跡→本丸<br>八幡地区：刑場跡（帯石路）→官修墓地→面影橋→三重塔→三重塔  | 高校2年<br>小学6年   | 日本史B：「幕藩体制の成立」学習の始めに<br>歴史学習全体のまとめ  |
|  | 秋田地方裁判所を見学してみよう<br>～裁判所の中はどうなっているのかな？～<br>～私たちの身近にある裁判所の中を自分の目で見てみよう！～   | 秋田地方裁判所  | 中学3年   | 公民的分野：「法を守る裁判所」の導入時   |
|  | 私たちの街のバス   | 秋田中央交通   | 小学5年   | 「わが国の産業と人々の工夫」の学習の中で  |
| 2003年度                                 | 僕たち・私たちの身近にある「歴史」にふれてみよう！<br>～地域に残る歴史的建造物や、伝統的行事に目を向けてみる～<br>秋田の自然・風土を知ろう<br>～自分たちの住む秋田県の気候にはどんな特色があるだろうか？～<br>～秋田の気象を観測している秋田気象台を見学してみよう～<br>郷土に伝わる伝統行事、伝統芸能にふれてみよう！<br>～秋田市に伝わる「平打ちまつり」にせまろう～<br>秋田を知ろう<br>～自分たちの住む秋田県にはどんな地域的特色があるだろうか？～<br>～博物館に行って調べよう～<br>「裁判ウォッチング」に行こう！<br>～裁判所見学を通して～<br>ミニ歴史・伝統探検<br>～身近にありながら知らなかった歴史・伝統を知ろう～<br>秋田中央郵便局見学<br>～手紙の行方をさぐるよう！～          | 太平山三吉神社皇宮→阿久宮、ぼんでん祭<br>秋田地方気象台<br>秋田市民俗館宮伝承館<br>秋田県立子ども博物館<br>秋田地方裁判所<br>秋田酒類製造<br>秋田中央郵便局   | 小学6年<br>中学1年<br>小学4年<br>中学1年<br>中学3年<br>中学1年<br>小学5年         | 歴史学習導入時<br>地理的分野：「日本の気候」の学習の中で<br>「きょうどにつたわるおがし」の導入時<br>地理的分野：「地域の規模に応じた調査」の学習の中で<br>公民的分野：「法を守る裁判所」の学習の中で<br>歴史的分野：「身近な地域の歴史を調べよう」の学習の中で<br>「私たちの生活と情報」の学習の中で  |
|  | 川尻町周辺散策と秋田刑務所の歴史<br>～川尻町の歴史と赤レンガの壁～  | 福祉福祉社→秋田刑務所赤レンガ正門跡→鉄座席→珍宝神社→阿久田堂行在所跡→新炭置き場→出入り仮所跡→米倉跡  | 小学6年   | 歴史学習全体のまとめ  |
|  | スーパーマーケットと中央卸売市場の見学<br>～人々の仕事と私たちの暮らしはどのようにつながっているのだろうか？～  | 秋田市民中央卸売市場   | 小学5年   | 「私たちの生活と食糧生産」のまとめとして  |
|  | 公共施設見学<br>～自衛隊の日～<br>今日から考えるまちづくり<br>～知っているようで知らない秋田市～<br>新聞社見学ツアー<br>～新聞はどうやってできあがるのだろうか？～<br>～新聞社のお仕事を見てみよう～<br>遺跡探検！<br>～御野野台地で暮らした人々～<br>秋田銘菓・一乃種見学で学ぶ（除）<br>～おかしからわかる、私たちの秋田～<br>交通網の発展と地域の姿容（院）<br>～新しい道路によって地域の何がかわるのだろうか？～<br>～新しい道路作りの現場を訪ねよう～  | 陸上自衛隊秋田駐屯地<br>竹谷友之助跡<br>秋田製紙新社<br>地蔵田遺跡伝蔵庫<br>一乃種仲小路本店<br>秋田中央道路事務所、千秋公園お塔現場   | 中学3年<br>中学3年<br>小学5年<br>中学1年<br>小学3年<br>中学2年                 | 公民的分野：「日本国憲法の基本原則」の学習のまとめとして<br>公民的分野：「地方の政治と自治」中の「まちづくりを成る」学習の中で<br>「私たちの生活と情報」の導入時<br>歴史的分野：「身近な地域の歴史を調べよう」導入時<br>「まちではたらくひとたち」の学習の中で<br>地理的分野：「(3)世界と比べて見た日本」の「(オ)地域間の結びつきから見た日本の地域的特色」の学習の中で  |
|  | 秋田港探検見学<br>～製品はどのようにして輸出・輸入されているのだろうか？～<br>～港で世界との関わりを知ろう～<br>身近な神社探訪<br>～日本人の信仰と暮らしの関わりをみてみよう～<br>ココ・コーラ工場見学<br>「ココ・コーラの秘密を探ろう！」～つながらる瞬間に、Coca Cola～<br>日本銀行秋田支店へ見学に行こう！<br>～日本銀行の仕事とは？～<br>わたしたちの暮らしを秋田を知ろう（伝統工芸「釜目録」見学）<br>～秋田の伝統工芸発見！～<br>～秋田の伝統工芸にはどんなものがあるだろうか？～<br>NHK秋田局に見学に行こう<br>～テレビ局の様子を見てみよう～<br>宅配物がなぜ翌日には届くのだろうか？<br>～ヤマト運輸の見学～<br>ミニ地域探検<br>～秋田の各産「きりたんぼ」ができるまで～ | 秋田興秋田港事務所→秋田港大坂埠頭<br>太平山三吉神社一石神社・愛宕神社→火産靈神社（火柱神社）<br>みちのくココ・コーラボトリング株式会社<br>日本銀行秋田支店<br>千貝工芸<br>NHK秋田放送局<br>ヤマト運輸秋田ベース<br>斉藤昭一商店本社工場 | 中学1年<br>小学1年<br>小学5年<br>中学3年<br>小学4年<br>小学5年<br>小学5年<br>小学5年 | 地理的分野：「世界から見た日本のすがた」の導入時<br>地理的分野：「世界から見た日本のすがた」「第4章世界と日本の暮らしと文化」「3人々の暮らしと宗教」の学習中<br>2「わたしたちの生活と工業生産について」(1)「自動車をつくる工業」の単元のまとめとして<br>公民的分野：「私たちの生活と経済」の導入時<br>「わたしたちの真一地域の特色を生かした伝統工業」の終わりの場<br>「わたしたちの生活と情報」の学習の中で<br>地理的分野：2内容の「(3)世界と比べて見た日本」(オ)地域間の結びつきから見た日本の地域的特色」の学習の中で<br>「食料生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸の」の学習の中で |
| 2006年度                                 | 和菓子づくりをする人の仕事～高砂堂で上生作り体験～  | 高砂堂本店  | 小学3年   | 「(2)地域の人々の生産や販売」の「イ 地域の人々の生産や販売」単元の中で   |
|  | 日本最後の空襲「土曜空襲」～秋田でおこった戦争を知ろう！～  | 新日本石油加工南秋田事業所（旧日本石油秋田製油所）  | 中学2年   | 歴史的分野：「(5)近現代の日本と世界」の「カ 昭和初期から第二次世界大戦の終結」の単元の中で   |
|  | 秋田の伝統文化と明治時代の文化を比較してみよう～わねり流し踊りと赤レンガ郷土館を見学しよう～   | わねり流し踊り→赤レンガ郷土館  | 中学2年   | 歴史的分野：「(5)近現代の日本と世界」の「イ 明治維新の経緯とあらまし」の単元の中で   |
|  | 手紙が届くまでの仕組み～郵便局を見学しよう～   | 秋田中央郵便局  | 小学5年   | 「(3)我が国の産業」の「ア 放送、新聞、電信電話などの産業と国民生活とのかかわり」の単元の中で  |
|  | 秋田車両センターってどんなところ？～安全・快適な鉄道輸送を支える立役者たち～   | J R東日本秋田支社秋田車両センター   | 小学3年   | 「(1)自分たちの住んでいる身近な地域や市（区、町、村）調べ」の「ア 身近な地域や市（区、町、村）調べ」の単元の中で  |
|  | 私たちの生活を支える電気がとどくまで～秋田火力発電所を見学しよう～  | 秋田火力発電所  | 小学4年   | 「(3)飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物処理」の「ア 飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物処理と自分たちの生活や産業とのかかわり」の単元の中で   |
|  | 郷土の歴史に触れてみよう～民族伝承館を見学しよう～  | 秋田市民俗伝承館   | 中学1年   | 歴史的分野：「(1)歴史の流れと地域の歴史」の「イ 身近な地域の歴史を調べよう」の単元の中で  |
|  | 寺町を探検しよう～私たちの身近にあるお寺に行ってみよう！～  | 法華寺→竜泉寺→秋宮寺→大慈寺→智願寺  | 中学1年   | 歴史的分野：「(3)中世の日本」の「イ 新たな文化の特色」の単元のまとめとして   |
|  | 気象台ではどんな仕事をしているのだろうか～秋田気象台を見学してみよう！～   | 秋田地方気象台  | 中学2年   | 地理的分野：「(3)世界と比べて見た日本」の「ア 様々な面からとらえた日本」の気候学習の後   |
|  | 八幡油田を見学しよう   | 帝国石油秋田採油所  | 小学6年   | 「(1)我が国の歴史」の「カ 第二次世界大戦と戦後」の単元の中で  |
|  | お酒はどうやって運られているのだろうか～秋田酒類製造株式会社 高清水～  | 秋田酒類製造株式会社 高清水   | 中学1年   | 地理的分野：「(2)地域の規模に応じた調査」の「ア 身近な地域」の単元の中で  |
|  | 私たちが見ている番組はどのように作られるのだろうか～AKTを見学しよう！～  | AKT秋田テレビ本社   | 小学5年   | 「(3)我が国の産業」の「ア 放送、新聞、電信電話などの産業と国民生活とのかかわり」の単元の中で  |
|  | 私たちの生活と銀行～秋田銀行の地域への取り組み～   | 秋田銀行本店   | 中学3年   | 公民的分野：「(2)国民生活と経済」の「ア 私たちの生活と経済」の単元の中で  |
| ※モデルミニ巡検<br>～「吉里かたる わたしたちの八幡・寺内」を歩こう！～ | 古四王神社→旭さし木→高清水電泉→傘岩（断層跡）→加藤権一菅江真澄の墓→面影橋→全長寺→三重塔（日吉神社）→一差塚  | 小学6年   | 歴史学習全体のまとめ   |   |

### ③「フィールドワーク型授業構成演習（ミニ巡検）」の実施事例～和菓子づくりをする人の仕事—高砂堂で上生づくり体験—

さて、このように実践している「フィールドワーク型授業構成演習（ミニ巡検）」であるが、ここでは、本年度に実施した「ミニ巡検」の具体的事例を紹介したい。以下に示すものは、実際に今年度の実践として、市内の伝統産業をテーマに構成した学生の報告書である。秋田市立保戸野小学校3年生の『人びとのしごととわたしたちの暮らし』の単元を想定し構成されたもので、対象地は、市内の和菓子の老舗である高砂堂である。実際に2006（平成18）年11月16日に「ミニ巡検」を実施している。

#### I. 授業構成のプランと工夫

##### (1)対象学校、学年

秋田市立保戸野小学校 3年生

##### (2)テーマ

和菓子づくりをする人の仕事—高砂堂で上生づくり体験—

##### (3)目的

- ・ 地域にある身近な商店を活用することで、そこで働く人や仕事に興味・関心を持たせる。(興味・関心)
- ・ 和菓子作りを体験することで、菓子作りという仕事を知り、理解を深める。(知識・理解)
- ・ 体験を通して、和菓子づくりをする人の仕事に対する工夫や、そこに込められた願いを考える。(思考・判断)

##### (4)年間計画、単元、授業での位置づけ

本巡検は、小学校3年生『人びとのしごととわたしたちの暮らし』の学習において行う。

小学校学習指導要領、第3学年及び第4学年の2内容に「(2) 地域の人々の生産や販売について、次のことを見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする。」とある。この授業は「イ 地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などのかかわり。」を扱う単元の中で行い、「地域の人々の生産や販売」について学ばせたい。「国内の他地域などのかかわり」については、この巡検のみで学習させるのは難しいと考える。そのため、本巡検においては「国内の他地域などのかかわり」への関連づけは無理に行わない。

事前学習では和菓子の製造工程を予想させ、そこで考えたことや疑問点を整理させる。そこから体験時に何を見てくるのか、といった課題を子どもたち自身に発見してもらう。この巡検は、その課題を解決する活動として位置づけたい。

##### (5)学習プランの工夫

###### 〈事前学習〉

- ・ どのように自分たちの下におかしが届いているのかを考え、「生産→販売→消費」という流れを理解する。(1時間)
- ・ 体験時に作る上生菓子を実際に見て、上生菓子はどのように作られるのかを5~6人のグループになって話し合い、製造工程を予想する。(1時間)
- ・ 予想した製造工程の中で、わからないことや、工夫しているだろうと思った点を、また、体験時に聞いてみたいことを質問シートに記入する。(1時間)

###### 〈巡検当日〉

- ・ 上生菓子づくり体験を通して、自分たちの予想と実際の菓子づくりとの違いを感じ取り、菓子をつくるという仕事について理解を深める。体験後、グループ毎にあらかじめ用意していた質問をし、当日疑問に感じた点は個別に質問する。(1時間)

###### 〈事後指導〉

- ・ グループ毎に、体験前に疑問に感じていたこと、体験時にわかったこと、感じたこと、新たに浮かんだ疑問点などを整理し、新聞形式でまとめる。(2時間)
- ・ 作成した新聞をグループ毎に発表する。(1時間)

## Ⅱ. 「ミニ巡検」の実際（2006年11月16日（木）実施）

### (1) 巡検場所—高砂堂本店



〒010-0912 秋田市保戸野通町2-24

TEL 018-823-0532

### (2) 巡検コース

12:30 秋田大学正門を出発

13:00 高砂堂本店到着

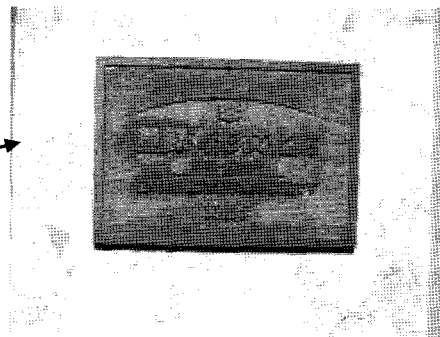
仕事における工夫や課題についてお話を伺い、上生菓子作りを体験する。

14:00 巡検終了

### (3) 巡検内容

高砂堂本店の沿革や和菓子を作るという仕事についてのお話を伺った後、上生菓子づくりを体験した。今回は2種類の上生菓子を作ったが、本巡検を実施した季節に合わせて、秋を表す柿と栲を作った。

○高砂堂本店—創業は1894年。現在の店舗は大正7年建築。平成12年に国登録有形文化財となっている。



### 【伺ったお話から】

#### 〈和菓子を作るということ〉

- ・和菓子を作る＝生ものを管理する、ということ。生ものを扱う仕事なので、作業場には暖房をつけていない。冬場の、特に早朝の寒さは厳しい。

#### 〈経営について〉

- ・手作りの菓子は材料、手間、労力すべてに経費がかかる。それでも昔は丁稚奉公や修行中の職人がいて、人件費にかかる割合が低かったが、現在はその割合も高くなっている。
- ・後継者について…大変な仕事なので、積極的に継がせたい、とは言えない。
- ・コンビニやスーパーでの菓子販売の影響で、個別の菓子店に足を運ぶ機会が減っている。加えて、手作りや本物の菓子

への理解が薄らいできている。添加物を使用しない大福は、朝作ると夕方には硬くなるのが普通だが、それを知らずに「大福が硬い」と苦情の電話がかかってきたことがあった。

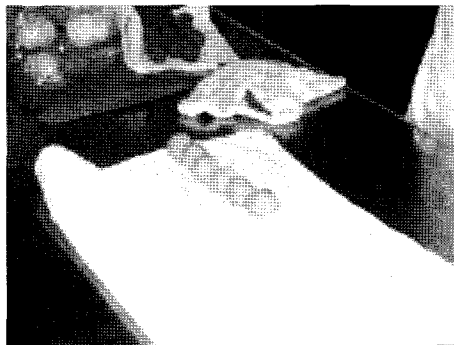
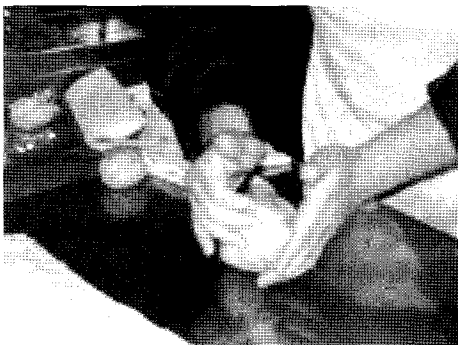
- ・こうした課題があるなかで、個別の菓子店は全体的に減る傾向にある。

〈今後について〉

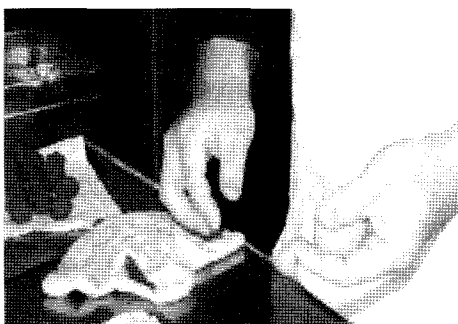
- ・経営を続けるためには、パパママストア（※）となるか、機械による製造に切り替えるか、この2つの選択肢から選ぶを得ないのが現実。
- ・高砂堂では、多くの人に店に足を運んでもらえるように、どこにもないお菓子を創り出そうと研究している。

※パパママストア…家族のみで経営する小規模な商店

### ○ 上生づくり体験－「柿」と「柊」を作る



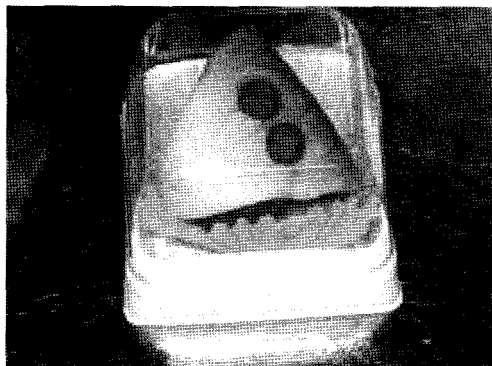
左：練り切りに食紅で色をつける。時間が経つと色が濃くなるため、仕上がりを考えて調節する。右：適当な大きさに分ける。



左：練り切りを回しながら餡（写真左奥）を包む。右：四方に筋を入れる。この時、餡を包んでしわになった方を下にする。（きれいに仕上げるポイント）



左：葉を作る。プロペラのように形を整え、羽の部分を摘まんでひねる。右：葉を乗せて、軸を立てて完成。軸は茶葉を使って表現する。



「柀」

葉の根元から中央は緑、葉先は白の練りきりを使い、二色の境は‘ほかす’。葉脈を表すために、型に当てて線をつける。この時、型に練り切りが付かないように型を湿らせる。また、強く押し当てない。

### Ⅲ. 巡検後の感想・意見

今回の巡検では、初めに高砂堂の沿革、菓子作りという仕事や店の経営についてのお話を伺った。

初めにお話していただいたのは、菓子を作るというのは大変な仕事である、ということだった。「生もの」扱う仕事のため、作業場には暖房を入れていない。朝早くから作業に取りかかるため冬場の寒さはかなりのものらしい。私たちが体験させて頂いたのは昼過ぎだったが、それでも寒かった。これが早朝だったら、と想像するだけでも、菓子を作る現場の大変さを推し測ることができた。また、経営に関してのお話も伺った。コンビニやスーパーでの菓子販売によって、個別の菓子店に足を運ぶ減り、手作り・本物の菓子への理解が薄らいできているという。こうしたことを背景に、個別の菓子店は全体的に減少傾向にあり、家内工業で経営を続けるか、機械製造にシフトするか、現在生き残る道はこの2つが大半であるということ等、これまで想像すらしていなかった菓子店の現状を教えていただいた。こうした現状を踏まえて、多くの人に店に足を運んでもらうために、どこにもないお菓子を研究しているという。続いて上生作りを体験したのだが、きれいに形作ろうにも力加減が難しく、思うようには行かなかった。上生は繊細な菓子で、手の温度でも品質が変化してしまうため、長い時間練り切りを持っていてはいけないこと、練り切りが手にくっついてしまわないように布巾で手を湿らせておくこと等、技術以前にも注意すべき点があった。職人の方が、短時間に美しい菓子を作り上げる様子を見て、一つの菓子ができるまでの手間やそこに込められた思いを実感した。

この巡検は、菓子店の抱える問題やお店の方の思いを知り、自分の消費者としての行動を省みるきっかけとなった。しかし、事前学習を十分にできず、自分自身が体験時の観点を明確にできないまま巡検に望んでしまったのが悔やまれる。事前に相手先へ実際にお話を聞きに伺って、体験内容もきちんと把握していたらより充実した内容になっていただろう。貴重な体験を生かすための事前学習の重要性を実感した巡検でもあった。

#### ④「フィールドワーク型授業構成演習（ミニ巡検）」の意義

筆者は、「臨場的授業」構成を目指す「フィールドワーク型授業構成演習（ミニ巡検）」の意義について、以下の六点として考えている。

- (1) 叙述化された知識からの解放
- (2) 生の社会事象と向き合う社会科の本質
- (3) 教材の「身近さ」を再考する契機
- (4) 自分自身の生活基盤への認識、振り返り
- (5) 教員養成・キャリア形成としての職業理解
- (6) プロジェクトワークとしての授業構築

これに関する詳細に関しては、本学実践センター紀要『秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要』第29号を参照されたい。本実践は、社会科における「臨場的授業」を構成し、まさに「場」に臨む学習を実際に実施することで、身近な地域の史跡や社会施設、そしてそこで実際に働く人々とのふれあいを持ち、学生のより深い社会認識、主体的な授業デザイン力の育成を目指すものである。本実践は、まだまだ発展途上であり試行

錯誤を繰り返しながら実践している。皆様方のご批判とご意見を受けつつ、より発展的に改良していきたい。

- <sup>1</sup> 「臨場的授業」とは、実際にその場に赴き、いわばその場を直接体験する授業である。それは、その場に臨むことはもちろんであるが、その場に関わる人と触れ合ういわば臨人的要素、またそこでの出来事や行事などの事に臨む臨事的要素も含まれる。それは、教室での座学だけでは得られない情報、すなわち視覚的情報はもちろんのこと、聴覚・嗅覚・触覚的情報や、実際にそこで働く人々とのコミュニケーションなど、その場の持つ豊富な情報環境に直接臨む授業である。こうした、実際の場に臨み、場や人、事と向き合う授業をここでは「臨場的授業」と呼ぶことにしたい。
- <sup>2</sup> 「古里かるた 八橋・寺内」は、1979-80（昭和 54-55）年に、秋田市立八橋小学校で作成され、1980（昭和 55）年に刊行された。作成の中心になったのは当時同校の学校長であった野尻滋氏であるが、野尻氏はその後、同じ秋田市の他地域を題材に 5 つのかるたを作成している。県単位ではなく市町村単位の同一地区で、合計 6 つの「郷土かるた」が作成された例は他に類をみない。拙著「歴史的地域素材の教材化とその特色—『古里かるた わたしたちの八橋・寺内』を事例として—」秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要編集委員会編『秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要』第 25 集、（秋田大学教育文化学部附属教育実践総合センター、2003 年）、17-30 頁を参照されたい。
- <sup>3</sup> 秋田県は、昭和初期に文部省普通学務局囑託としていわば「郷土教育主事」的役割を果たした小田内通敏（1875-1954）の出身地であり、小田内は郷土教育講習会講師等で度々秋田県を訪れている。また、そうした小田内の関係で、秋田県では昭和初期の文部省による郷土教育関係施策の内、全国師範学校への模範的郷土研究を示すべく施策された『総合郷土研究』編纂を託され、秋田県師範学校、秋田県女子師範学校を中心に『秋田県総合郷土研究』（1939 年）が編纂され、刊行されている。この前提となった『郷土研究紀要』『郷土地理研究書』（ともに秋田県女子師範学校編、1932 年発行）に倣い、冊子作成も授業の一環として位置付け、学生の手作りで報告書を編纂している。拙著『昭和初期における郷土教育の施策と実践に関する研究』（NSK 出版、2004 年）、第六章を参照されたい。